

福祉実践教室報告 車いす体験

福祉実践教室にて、車いす体験をさせていただきました。

車いすですり上がりや校舎一階を回りました。車いすを押す際、大切なことが二つあるとわかりました。一つ目は、力です。大きな段差を上るとき、車いすの重さ+乗っている人の体重がかかるため、腕や脚に大きな負担がかかりました。二つ目は、声かけです。段差を上るとき、車いすを大きく傾けます。乗っている側からすると、ただでさえ車いすを傾けられるのは怖く、声かけがないとさらに怖くなり、驚いてしまいます。その他、後ろ向きでスロープを下るとき、段差を上るときなど、小さな上がり下がりでも報告が重要だと実感しました。また、車いすの方と話すとき、立った状態で話してしまうと、威圧的に感じてしまいます。しゃがみこんで、同じ目線で話してもらうと、安心して話ことができました。

改善が必要だと感じた点が、二つあります。一つ目は手洗い場です。車いすに乗った状態では、下のバーのようなものに引っかかってしまい、手を洗うことが難しかったです。車いすに乗っている方にとって、大きなバリアになっていると感じました。

二つ目は、下駄箱です。中央部分は手を伸ばせば届くのですが、上部はどうしても届かず苦しかったです。ふだん私たちが気に留めていないような小さなことでも、車いすの方にとっては困難に感じているのだと気がつきました。

みなさんは右下の画像のマークを見たことがあるでしょうか。これは車いすマーク（国際シンボルマーク）です。障がい者が容易に利用できる建物であることを表すマークです。主に、トイレ、駐車場、建物の入り口、エレベーター、車などにあります。このようなマークの付いた施設が増えるといいですね。

今回の学習で、小さなことでも報告したり、困っているところを見かけたら話しかけたりと、コミュニケーションが大切だとわかりました。まだ現段階では、設備が整っていない場所も多いと思います。しかし、設備が整うのを待つだけでなく、私たちがすすんで手助けをすることで、理解も深まるのではと考えました。

